

工場再編で製造・供給を合理化 品質を見極め、安全を追求する飼料工場

確かな品質の飼料を長期にわたり安定的にお届けするために、JA全農グループは、全国6地域に地域別飼料会社を有しています。今回は、岡山県倉敷市に新しく建設されたJA西日本くみあい飼料株式会社倉敷工場を紹介します。

国内最大規模の生産能力を誇る 配合飼料工場（倉敷工場）

高品質で安全な配合飼料を製造するJA西日本くみあい飼料株式会社。同社は、長年にわたり飼料製造を担ってきた3工場（神戸、水島、坂出）を供給体制の合理化を目的に集約。2017年6月、岡山県倉敷市の玉島ハーバーアイランドに年間生産量80万tの総生産能力を持つ国内最大規模の配合飼料工場（倉敷）を新たに建設しました。また、19年3月には最後の集約工場となった坂出工場からの製造移管を完了し、翌4月からは年間80万t製造に向けたフル稼働体制での操業を開始しました。

工場建設地の選定に重要としたのは、自然災

害が少ない事。倉敷市は瀬戸内海に面していて一年を通して温暖で災害も少ない地域。また5つの高速道路のインターチェンジと新幹線の駅があり交通の便も良好な事から、玉島港の沖に造られた人工島、玉島ハーバーアイランドが選ばれました。人工島は海面より約7m上にあるため、津波や高潮の被害を防ぐ事ができるのも決め手となりました。

そして新工場の最大の特徴は、「食料コンビナート」というコンセプト。約10万㎡もの広大な敷地に、全農サイロ株式会社穀物サイロ、株式会社Jーオイルミルズの搾油工場、同社の飼料配合工場が並び建っています。各会社はコンベアで回廊のようにつながって、効率的に飼料が製造できるコンビナートを構築しているのです。

BSEガイドラインを遵守し、 安全と品質を徹底管理

倉敷工場には全農サイロから毎時3000tのトウモロコシ、Jーオイルミルズから毎時1000tの大豆かすミールがコンベアを通って送られてきます。飼料の年間生産量は80万tのうち、A飼料（養牛用）は年間25万t、B飼料（鶏豚用）は年間55万tの生産が可能です。製品の出荷タンクはA飼料92本、B飼料192本を用意。その数からも規模の大きさが分かります。敷地内はBSEガイドラインに基づき、A飼料とB飼料は別棟にて管理。原料受け入れから出荷まで製造工程を完全分離し、動物性タンパク質の混入を防いでいます。

工場棟の中央操作室では24時間体制で製造・出荷

管理が行われ、災害時や緊急時においても供給維持ができるよう電気設備は二重化し万全の対策を施しています。また工場内は最新の設備・機器を導入し、高い生産量を可能にしています。品質管理

面も、受け入れる原料の確認とともに、製造工程の管理を徹底する事で、安全性の確保に努めています。また、配合飼料の輸送についても、供給体制整備によって、広域化した供給エリアをカバーで

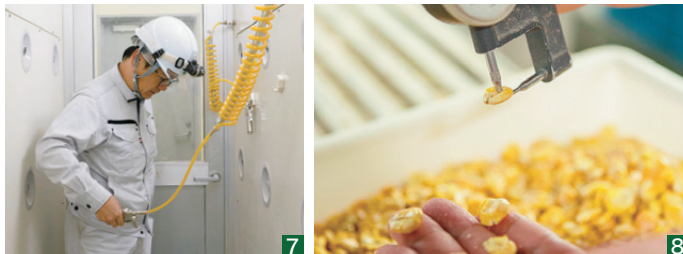
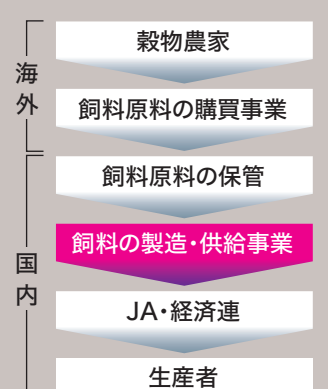
きる輸送体制を構築しました。飼料工場の使命は、より良い飼料づくりを追求して、安全で安心、高品質な製品を生産者に届けること。今後も新工場の活躍に期待が寄せられます。



JA西日本くみあい飼料株式会社
■本社所在地：兵庫県神戸市中央区浜辺通5-1-14
■設立：1968年7月1日
■資本金：29億4千万円
■従業員数：297名(令和2年1月1日時点)
■拠点：3工場(倉敷・小松島・宇和島)
3支店(近畿・中国・四国)
4営業所(京滋・山陰・西中国・西四国)

■敷地内には、3つの企業による食料コンビナートが構成されている ■A飼料とB飼料の工場は原料受入から全て別棟。工場内はまちがいがなく、色分けされている(写真はA飼料工場) ■ペレットタイプ飼料を製造する機械 ■決まった場所から投下される微量原料 ■原料の成分を分析する品質管理部門 ■設計通りの飼料を製造するため、中央操作室にて機械を一元管理 ■工場間の行き来の際はエアシャワーにてホコリを徹底して排除 ■圧パンしたトウモロコシの厚さを計測

飼料原料・配合飼料の流れ



担当者の声



橋本 政則氏
JA西日本くみあい飼料株式会社
倉敷工場 製造2課 課長代理

工場の中核となる中央操作室にて、計画担当者から指令を受け養牛用飼料製造のプログラム操作を担当しています。オーダーごとに原料の配合割合から加工方法、最終的な出荷方法まで一連の製造工程を管理しており、できた製品はサンプル採取してその色やにおい、見た目を丁寧にチェック。少しの異変も見逃すことなく、お客様に安心してご利用いただける安全な商品をお届けできるようにと細心の注意を払っています。私どもの飼料を使って枝肉共励会等で良い結果が出せた、など生産者の喜びの声を聞くと大きなやりがいに。今後も真摯に取り組んでまいります。

